

環境教育「まず、今できることから」

歴史に学ぶ

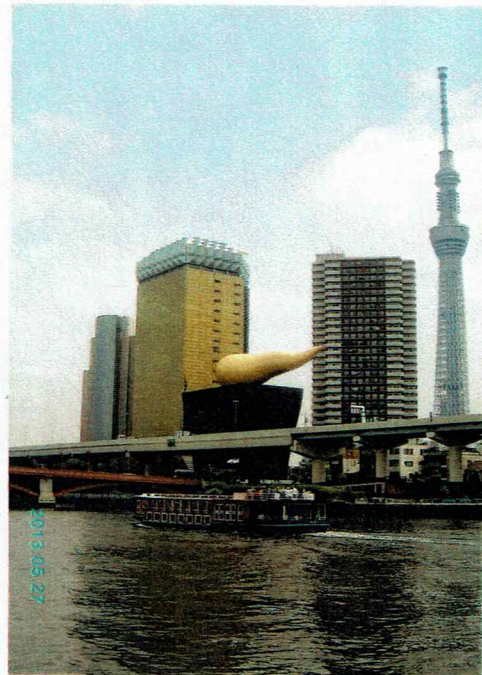
発行所：地域環境活性化協議会
 編集者：代表幹事 高橋 賢一
 連絡先：市民活動支援センター
 尾張旭市渋川町三丁目5番地7
 (渋川福祉センター内)
 TEL 0561-51-2878



▲ 東京駅正面

辰野金吾が情熱を注いだ大正の東京駅がよみがえる

銅板葺きが復活
 屋根は天然スレート(粘板岩)
 銅板葺きに銅板は真新しい
 間は10円玉のこくと輝いているが
 あえて手を加えず、経年に奉げた
 時間の経過とともに緑色を帯びていくという。戦後焼失した小さな屋根も復活した。
 一般建築では見られない技術を総動員して造られた新丸の内駅舎列車に乗るとも訪れ細部までじっくり眺めておぼろげにうらやまそう。



「お寺巡礼」などの哲学者、りて信じていた。和辻哲郎(1891-1961)が「一九二三年の関東大震災に引いて興味深いことを書いている。震災前から近い将来関東で大地震が起ると信じていた。理由は、そのう異変が自分に縁遠いものとして感ぜられた。」

▽ 千代田区本郷22階にある辰野金吾の「アサヒカイロム」に東京に行くに必ずここで一杯やむを得ず飲む。



▲ 歌舞伎座

2017.12
 政府の地震調査委員会は、北海道東部沖の太平洋で、マグニチュード(M)9級の超巨大地震の発生が切迫している可能性が高いとの予測を公表した。
 「切迫」という表現に過去の大地震の映像が浮かぶ胸がざわつく。ここから間接的である。長官閣になる政府自治体はもう入る。秋も準備は必要である。



「カクシティー」を何回飲んだか？
 ▲ 日本では神谷ハニー浅草ではこうを味わう。

